

府立学校施設長寿命化整備方針に基づく事業実施計画
(第2期:令和8～12年度)

令和8年3月

大阪府教育庁

1 本計画の位置づけ

本計画は「府立学校施設長寿命化整備方針(第2期)」(令和8年3月策定)に基づき、学校・棟単位での計画的な改修等に取り組むための実施計画(第2期:令和8～12年度)として策定するものである。

2 実施計画

主たる校舎の築年数が70年を超える学校が年々増加していくことから、築年数に加え老朽化の状況を鑑みて、改築対象校を検討し、改築を計画的に進める。

長寿命化改修として、第1期計画(令和3～7年度)に基づく改修により、劣化度調査「d判定」については概ね解消することができたが、調査時点(平成28～30年度)から一定の期間が経過し、劣化度調査「d判定」以外と評価されている箇所についても劣化が進んでいることが想定されることから、未改修の学校施設については築年数や劣化状況等を踏まえ、計画的に改修を進める。

また、教育環境向上・学校の魅力化推進を老朽化対策と一体的に実施していく。

なお、高等学校と支援学校では現状課題や整備水準等が異なることから、個別に検討していく必要がある。

計画期間中、教育施策の方針・計画、社会情勢、整備の進捗状況等に応じて、実施計画の見直しを行う。

(1)改築

主たる校舎の築年数が使用年数の目安である 70 年を経過する場合の整備の方向性は、改築(又は更なる長寿命化)とする。

改修を行っても安全性や良好な学習環境を確保できない状態や他の施設への集約化等の代替策がない場合等については、築後 70 年に満たない場合でも学校施設の改築を検討する。

中長期的にニーズが高い学校や、地域の学びの拠点としての役割を期待される学校、生徒の学びの保障を担う学校などを中心に、築後 70 年に関わらず柔軟に検討し、必要な建物について効果的な改築を進める。

改築の検討については、再生(改修・設備更新等)により継続使用する場合と改築する場合の費用を長期で試算の上、いずれが有利か検討する。

改築にあたっては、長寿命化対策として、計画の段階から、改築後の維持管理の簡便さやライフサイクルコストの検証、間仕切りの変更や用途転用しやすい構造体・内装を計画する「スケルトン・インフィル」の視点を踏まえる。

また、適正な規模について十分に検討するとともに、可能な場合は校舎の高層化等を検討し、残余の土地については売却等に努める。

改築における標準的な仕様等については、建築条件(敷地条件、校舎配置や校舎全体又は1棟のみの建替え)などを踏まえつつ、直近の建替え事例等を参考に検討する。

- ・ 主たる校舎(本館)の築年数が 88 年(令和8年3月末現在)を経過している寝屋川高校は、令和9年度から改築工事に着手予定。
- ・ 旭高校(築 71 年)、東住吉高校(築 69 年)については、令和8年度より改築の検討に着手予定。
- ・ これらに続き、築年数や老朽化の状況をふまえ、再編整備の動きとあわせて、計画的に改築を検討・実施していく。

(2)改修

①予防保全

学校施設の改修等を計画的に進めるため、延床面積1千㎡以上の建物を対象に平成28年度から平成30年度の3年間の劣化度調査を実施し、第1期計画に基づき「d判定」の箇所を解消した。

今後も劣化度調査や日常点検等の結果を踏まえ、計画的な改修等を進めていくことにより、学校施設の健全化を図ることが重要となる。

なかでも屋根・屋上防水、外壁等は躯体の耐久性に直結するため、それらの工事を優先する。

設計時において築年数を勘案し、長期的に性能を維持できる仕様を基本に改修サイクル、メンテナンスの容易性を考慮し、事業内容を決定するとともに、設備等、更新時期の近い部位を原則、棟ごとに集約して改修を実施することで、工期の短縮、コスト削減、効率化を図る。

設備機器の老朽化対策として、物理的な耐用年数を経過している設備機器は更新を基本とするが、日常的な目視点検や消耗部品の定期交換によって、故障を未然に防止する対策も必要である。

- * 施設機能に支障をきたしているなど緊急的な対応が必要な部位は、個別に工事を実施。
- * 改修予定校が高等学校再編整備の実施対象校となった場合は、閉校まで生徒及び教職員が安全・安心に施設利用するために必要な改修を効率的に実施する。
- * 劣化が進行した(予測される)部位については、一体的な改修を行い、予防保全を効率的に実施する。

②教育環境向上・学校の魅力化推進等

長寿命化改修にあたっては、建物の継続使用年数等を考慮するだけでなく、トイレ洋式化等、空調設備整備、内装リニューアルなど、新しい時代の学びを実現するための学習環境面及び生活環境面での機能向上や学校の魅力化推進を考慮して実施していく。

a) トイレの洋式化等

令和8年度末までに、トイレ洋式化目標値(92%以上)達成に向け改修。令和9年度以降、床の乾式化や照明のLED化等を検討・実施。

b) 空調設備整備

空調設備を設置していない特別教室等について、計画的に整備を実施。

c) 内装リニューアル

築30～60年(令和7年度末)の128校(高校98、支援30)の普通教室等の内装リニューアルを令和8～12年度に計画的に実施。